

林業新知識

2012
No.704

2012年7月1日発行(毎月1回1日発行)通巻704号
昭和33年12月15日第三種郵便物認可 ISSN 0485-3882

目次

特別レポート

「兄貴分がスカウト
林研若返りのコツ！」…1
静岡市林業研究会(静岡県)

みんなで作ろう!

「杉玉」…6
美杉林業研究会(三重県)

山のよろず講座

「契約で不利益を
被らないために。
施業を委託されて
いる方は要確認」…8
後藤國利さん(大分県)

境界のドラマ

「双方納得すれば境界になる。
境界の調整役「世話人さん」」…10
美馬森林組合(徳島県)

道具入門 現場の技

「かかり木処理・
けん引伐倒に使える
立木を引っ張る
ロープテクニック」…12
段木秀夫さん(長野県)

収穫の喜び!

林間・林床の活用術
「株分けと実生で増やす
ギョウジャニンニク②」…15
清水守さん(新潟県)

お悩み相談室

「竹林整備が
思うように進みません」…17

山を継ぐ

「時の流れを静観する山」…18
森口金次さん一家(滋賀県)

こちら

林業普及指導員です…20
秋田県・高知県

読者コーナー…22

木材市況

全林協からのお知らせ…24



■表紙の人
森口金次さん(左)・
直樹さん父子(滋賀県大津市)。
記事は18～19頁

収穫の
喜び!

林間・林床の
活用術

清水守さん
(新潟県/農林家)

株分けと実生で増やす ギョウウジヤニンニク②

株分けで着実に増やす

「ギョウウジヤニンニクは将来有望」

視察先でそう聞いて、3年前から栽培を始めたという清水守さん。「焼き肉と一緒に食べても、めんつゆ漬けやミソにしてもおいしい。ご飯が何杯でも進みます。研究中ですが、粉末にしてお茶に利用するなど、色々可能性があると思います」。すっかり虜になった様子



▲清水守さん

の清水さんに、今月はギョウウジヤニンニクの増やし方について伺いました。

増やす方法はいくつかあります。清水さんは主に、株分けと実生で増やします。株分けの特徴は短期間で簡単に増やせますが、大量にはできないこと。逆に、実生は難しく時間がかかりますが、一気に増やすことが可能です。

まず、株分けの方法です。ギョウウジヤニンニクは地中に鱗茎(球根)を形成し、分裂します。「3年くらいすると、3つが6つになったりする」そう、この鱗茎を丁寧に切り分けて増殖します。こうやって清水さんは、3年間で3000株を3500株ほどに増

やせたといえます。

清水さんの地域では、4月下旬に芽吹き、5月中旬の収穫時期を過ぎると、ネギに似た白い花を咲かせます。60粒ほどの種子ができます。後は、地上部は徐々に枯れていき、10月頃から翌春までの「休眠する間に株分けを行います」。

実生で一気に増やす

実生栽培では、種子の採取が肝

心です。「乾燥に弱い」ため、そのタイミングと取り方次第では発芽率が極端に落ちてしまいます。絶好のタイミングは、花が散って、膨らんだ緑色の果実が割れて、中の黒く熟した丸い種子が見え始める7月中旬頃です。この時、種子だけを取り出さず、「果実ごと採取するのが一番いい」。そして、そのまま、すぐに播種するのも発芽率が上がるコツです。また、土を1〜2cmかぶせた上からさらに、ソバ殻で被覆して種子を乾燥から防ぎます。種子はその年の9月頃に発根し、翌春に葉を1枚出し、

次の年は2枚と、ゆっくり成長します。

収穫までは7年。根気よく育てても獣害にあつたら苦労も台無しですから、心配になるのも無理からぬこと。しかし、この地域では被害はないそうです。サルが多くいますが、ギョウウジヤニンニクには見向きもしません。強いニンニクのおいさや、「クセがあるから」食べられないとのこと。むしろ人に盗られることが心配です。

ゆくゆくはギョウウジヤニンニクを「経営の柱にしたい」。そう考える清水さんは、「株の数が全然足りません。どんどん増やしたい」と意気込みを話してくれました。



▲果実が割れてきた時が種子の採取適期



「収穫の喜び(15頁)」に、ご登場いただいた清水守さんに、ギョウジャンニクのおすすめの食べ方「めんつゆ漬け」の作り方を教えていただきました。

作り方は簡単で、料理の苦手な男性にもできます。一口サイズに刻んだギョウジャンニクと神楽なんばん(ピーマンのように膨らんだ唐辛子)を、めんつゆに2、3日漬けておくだけです。好みによりますが、「生のまま漬けるとクセが強いので、1分間茹でてから漬けるとマイルド」で食べやすくなるそうです。ピリ辛でお酒もすすみ、食欲も増進します。

冷蔵すれば半年以上保存できるので、清水さんは、夏期はこれを食べて草取りなどの辛い山仕事を乗り越えます。「匂いはニンニクより凄いかも」と付け加える清水さん。そのため、食べるのは夜や出かけない時だけがいいですよ、と話します。

木材市況

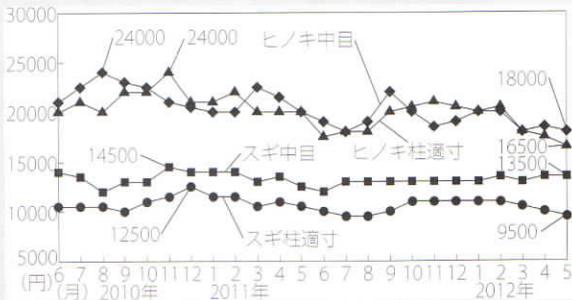
天竜営業所(浜松市)は、静岡県森林組合連合会の木材市場の一つ。グラフの5月の数値は

9日の中値。出品量2349m³、落札率100%。

「ヒノキは中目、構造材ともに下げている。製品市場の動きが鈍いようで、需要が低迷している」と平野均所長。スギも「全体的に下げている」ものの、「中目は動きがよく、良材は好調」とのこと。

2300m³ほどの出品も完売。「お願いして買ってもらっているものもあり、それに引張られて単価も下がってしまいが、次回もなんとか売っていききたい」。

静岡県森林組合連合会・
天竜営業所共販単価 (m³単位)



ヒノキ中目(長さ4m、末口20~28cm)、ヒノキ柱適寸(3m、16~18cm)、スギ中目(4m、20~28cm)、スギ柱適寸(3m、14~18cm)市日は毎週水曜日、グラフのデータは原則的に毎月2回目の市のもの

全林協から

姉妹誌「現代林業」7月号

★特集「財産区・共有林・生産森林組合の今日的な役割」九州大学教授/佐藤宣子/香川県土庄町大鐸財産区/滋賀県栗東市金勝生産森林組合 ●お役に立ちます!最新研究紹介/森林作業道木製構造物の経年変化/相澤寛子 ●目指せ! 林業プロフェッショナル~鹿児島大学の林業技術者養成の取り組みから~/枚田邦宏 など ■定価400円(送料76円)年間購読5700円・お申込は下記まで

編集後記

「特別レポート」でお話を伺った片平さんは、緑の雇用の指導者としても活躍します。取材の合間に次々にご披露いただいた技はどれもすぐに実践できそう。いずれ読者のみなさまにもご紹介できれば、と思います。(只野) 「道具入門」に4号連続でご登場いただいた段木さんには、実は2008年3月号でもかかり木処理の技をご披露いただいています。現状に満足しない飽くなき追求の姿勢。仕事は違えど、私も見習わなければ……。 (仮家)

全林協の出版案内

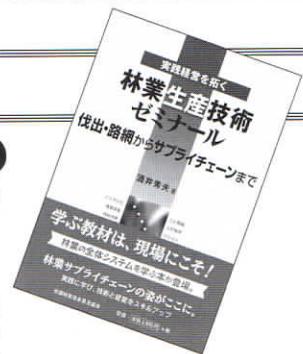
「実践経営を拓く 林業生産技術セミナー 伐出・路網からサプライチェーンまで」

酒井秀夫 著
A5判 352頁 ハードカバー
定価3,780円 ISBN978-4-88138-275-2

本書は、伐出・林業機械・作業システム・路網等の林業生産技術の技術点検からサプライチェーンまで、木材生産・販売を通じてビジネスとして収益を上げていくために必要な「林業生産技術」をまとめた実践書。

姉妹誌・月刊「現代林業」で連載された「林業生産技術セミナー」をベースに、新たな知見を付加して再編成しました。

森林・林業再生プランがスタートし、待ったなしで自立経営の時代に直面した今こそ、押さえておきたいポイントが満載です。



弊会はSGEC森林認証の審査機関です

このページの本のご注文は、各都道府県の林業改良普及協会(一部、山林協会など)、または全林協(FAX03-3584-9126 または TEL03-3583-8461、ウェブサイトwww.ringyou.or.jp)まで。